

## 芸術文化学科の創設三十五周年を記念して

芸術文化学科が創設三十五周年を迎えられたことを心からお慶び申し上げます。本年四月より、文学部の改組により芸術文化学科は、国文学科、英文学科と共に国際言語・文化学科内に再編成され、芸術コース及び国際文化コースという新たな形をとり発展していきます。芸術コースにおいては、従来通り絵画、デザイン、マンガ・アニメーション等を学ぶこともできますし、新たに書道も付け加わりました。国際文化コースでは、領域を越えた、また複合した文化として芸術文化、美術史、演劇・映画論などの教育研究が行われます。

この芸術コースと国際文化コースとの密接な連携は、また日本語・日本文学コース、英語・英文学コースとの関係においてもみられます。従来の学科の壁が無くなり、学生は自分の専門を特化しながらも、自由にコース間を跨って広い領域の知識と方法を学ぶことができます。つまり、学生は、芸術コースを主専攻とし、日本語・日本文学コース或いは国際文化コースを副専攻として、二つのコースを履修し、卒業時にはその主副両コースの修了が認定されます。この複合領域の教育は、当然のこととして研究面での専門を越えた協力関係の上に成り立ちます。教員は従来の学科

の壁を取り払い、広い専門領域内で相互に自己の専門領域の研究を位置づけ、相互に協力を強めていくことになります。このような状況の中で、芸術文化学科が永年築いてこられた研究教育の成果はさらにより実りのあるものとなるでしょう。この度の改組は、決して芸術文化学科を国際言語・文化学科に埋没させるものではなく、むしろ広い国際文化という視点から他の専門領域と競合しながら、より新たな発展を期待するものです。次の四十周年には、これまでにない創造性豊かな芸術作品が創造され、研究成果が発表されることになるでしょう。

さて、少し私自身のことを述べさせていただきますと、子どもの頃から絵画への興味は強く、画家になりたいという夢を持っておりました。それで、今でも芸術という職業に羨望と尊敬を抱いております。海外旅行では必ず美術館や博物館に行きますが、モンパルナスの丘の小さな店で買った静物の油絵、ルーブル美術館で買ったモナリザの複製、ジュヴェルニーで買ったモネの「睡蓮」などを部屋いっぱい飾り、ザルツブルグの街の中で何回も聞いたモーツアルトの「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」(小夜曲)のCDを聴きながら、楽しかった日々を思い出すのが

今のささやかな楽しみです。学長室にも、卒業生の有吉宏朗さんと田口玲子さんの素晴らしい絵が飾られ、毎日絵を通してこの人たちに出会うのが楽しみです。芸術文化は人間の心の奥深くに沁みこんでくる安らぎと、心を激しく揺り動かすエネルギーと興奮をもたらす糧であるように思いますが。別府大学においても、文学部、食物栄養科学部、そして四月から開設される国際経営学部の三学部体制になります。芸術文化学科のよき伝統が生かされ、そして芸術コースや国際文化コースにおいて新たな創造が繰り広げられ、別府大学における心の安らぎと未来に向かって漲る興奮したエネルギーを醸し出す源になっていただけるものと期待しております。